

平成 27 年度第 5 回 長野市廃棄物減量等推進審議会 議事録【要旨】

【開催概要】

開催日時：平成 28 年 3 月 29 日（火） 9 時 30 分～11 時 55 分

開催場所：長野市役所第一庁舎 7 階 第二委員会室

【次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 環境部長あいさつ
- 4 前回の議事録確認
- 5 諮 問「一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について」
- 6 議 事
 - （1）一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について
 - （2）平成 27 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について
 - （3）平成 28 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施計画（案）について
- 7 その他
- 8 閉 会

【会議資料】

- ・平成 27 年度第 4 回長野市廃棄物減量等推進審議会議事録（要旨）
- ・資料 1 一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について
- ・資料 2 平成 27 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について
- ・資料 3 平成 28 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施計画（案）
- ・参考資料 1 平成 27 年度ごみ処理実施計画 全体結果
- ・参考資料 2 平成 27 年度ごみ処理実施計画 評価結果
- ・参考資料 3 ごみ処理実施計画 年度別重点項目
- ・参考資料 4 平成 28 年度ごみ処理実施計画概要
- ・ゴミ通信 8 号

【出席委員】 12 名

【欠席委員】 3 名

【事務局】 13 名

【報道・傍聴者】 2 名

【会議内容(要旨)】

1 開 会

◇会議の成立と公開について報告（事務局）

2 会長あいさつ

年度末の大変お忙しいところ、ご出席いただき感謝申し上げます。

一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について、本審議会へ諮問があるため、審議をお願いする。また、ごみ処理実施計画の平成 27 年度実施状況報告及び平成 28 年度実施計画（案）についてご審議いただく。審議事項が多いが、活発なご意見・ご討議をお願いする。

3 環境部長あいさつ

年度末の大変お忙しいところご出席いただき、感謝申し上げます。

長野県では、一人一日当たりのごみ排出量を 800 グラム以下にする「チャレンジ 800」という取り組みを推進しており、まずは排出量の少なさ全国 1 位を目指していたが、平成 26 年度実績が 838 グラムで初めて全国 1 位となった。なお、長野市は 942 グラムで、県内 19 市中 16 位であり、これからも減量を推進する必要がある。

また、長野広域連合が計画している広域ごみ焼却施設について、千曲市に設ける焼却施設の建設候補地区から同意書が提出されるとの新聞報道がなされた。隣接地区とは協議中だが、ごみ処理広域化に向けて進捗している状況である。

審議事項の 1 点目として、し尿及び生活雑排水処理手数料の改定について諮問させていただき、専門部会の設置をお願いする。し尿等の収集量は、公共下水道等の整備に伴い、今後も減少が見込まれるが、処理コストや下水道料金との均衡を考慮した手数料と、安定した収集体制の確保が求められている。

また、生活雑排水処理手数料に関しては、下水道接続に向けた利用者負担の在り方を含め、適正な手数料について、昨年 8 月に本審議会より答申をいただいた。以上の背景も踏まえつつ、ご議論いただきたい。

2 点目として、本市では、「長野市一般廃棄物処理基本計画」に基づき、「長野市一般廃棄物処理実施計画」を定めて、目標達成のための具体的施策を実施・展開しているが、「平成 27 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況」について、評価結果をご報告させていただく。また、「平成 28 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施計画（案）」についてご説明させていただき、ご審議をお願いしたい。

幅広いご見識から、ご意見ご指導を賜りますようお願いする。（環境部長）

4 前回の議事録確認

◇平成 27 年度第 4 回審議会の議事録（要旨）の確認が行われ、修正箇所なしで承認された。

5 諮問

◇一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について、環境部長から会長へ諮問書交付

6 議事

（1）一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について

◇資料 1 「一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について」により説明（事務局）

<以下、質疑応答>

（委員） 生活雑排水簡易浄化槽の設置に対する補助制度はあるのか。

（事務局） 昭和 48 年から平成 13 年度まで補助を行っていた。以前は、下水道接続できない場合、必ず設置するように建築確認の対象となっていた時期もある。

（委員） 簡易浄化槽の撤去費に対する補助はあるのか。

（事務局） 浄化槽の撤去は、下水道接続の工事に伴って行われると考えられるため、それに対する補助は行っていない。

（委員） 資料 1 シート 6 に、収集コスト 9,820 円とあるが、この算出根拠は何か。

- (事務局) 現在の手数料を設定する際に用いた原価であり、人件費や燃料費、事務的経費など収集に係る経費を清掃基数で割って算出している。専門部会において、今回の手数料改定に用いる数値を提示する予定である。
- (会長) 諮問事項については、専門部会を設置し、審議いただき、審議会に報告していただくということである。専門部会の委員選出について、事務局の案があればお願いしたい。
- (事務局) 事前に内諾をいただいた、市川委員、松澤委員、松本会長、水野委員、三野委員、百瀬委員、矢澤委員に専門部会委員としてお願いしたい。
- (会長) 発表のあった7人の委員に専門部会委員をお願いしたい。

(2) 平成 27 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について

◇資料 2 「平成 27 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について」及び参考資料 1～2 により説明 (事務局)

<以下、質疑応答>

- (会長) マイバッグ持参率が向上しているが、向上した理由は何か。
- (委員) 調査対象の店舗を替えた影響もあるかもしれないが、実際に調査に行った印象として、レジ袋を無料配布している店舗でもマイバッグを持参している方がとても多く、市民の意識が向上していると感じた。
- (委員) ついでに買い物に行くときやコンビニを利用する場合は、マイバッグを持参する人が少ない。また、比較的男性の方がレジ袋を利用することが多い。
- (事務局) ごみを減らす目的だけでなく、楽しみとしてマイバッグを活用してもらうという観点から、「マイバッグふえすた」というイベントも開催されている。手作りのマイバッグや子どもが絵を描いたマイバッグを持って買い物に行くことにより、楽しみに繋がる。
- (委員) 出前講座の開催件数が目標に達していないが、もっとPRすれば開催件数は増えるのではないか。
- (事務局) 地区役員に対する説明会の場でも出前講座の案内をしているが、ごみの分別等はある程度定着してきており、以前に比べ、申込みが少なくなっている。
- (委員) ある程度人数を集めないといけないのか。私の地区ではお茶のみサロンが活性化しており、そういったところでも出前講座をしてもらえたら良い。
- (事務局) 原則として10名以上の団体という決まりはあるが、機会があれば是非説明に伺いたい。現在は、食品ロスが問題となってきているため、そういう切り口から説明することも検討したい。
- (委員) 国では消費拡大を推進している中で、物を大切にしましょうとか無駄な買い物は控えましょうと標榜することは相反するよう感じる。捨てればごみになってしまうが、まだ使えるものをどのように活かしていくのかということを啓発していけば、結果的にごみも減ると思われる。ごみを減らすための活動にも面白味があると良い。
- (委員) ゴミ通信に衣類のリサイクルに関する記事が掲載されているが、積極的に古着のリサイクルが進んでいけば、可燃ごみは減ると思われる。ドイツ等では、古着の回収ボックスが街中に設置されており、まだ着れそうなものを洗濯してボックスに入れるという制度が根付いている。そういう形が望ましいかわからないが、長野市でも独自の取り組みができると良い。
- (事務局) ものを大切にする、使い切るということが重要である。ゴミ通信は、集団資源回収の観点から掲載しているが、子ども服等のリユースにも取り組んでいきたいと考え

ている。今までもリフレッシュプラザ等で子ども服の交換会を開催していたが、そういった取り組みを広げていきたい。

また、食品についても、フードバンク信州の事務局が市内にあり、繋がりができてきたため、そういったこともPRしていきたい。

(3) 平成 28 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施計画 (案) について

◇資料 3 「平成 28 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施計画 (案)」及び参考資料 3～4 により説明 (事務局)

- (委員) 使用済小型家電の回収協力店はどの店舗あるのか。また、回収した小型家電の売却収入による便益はあるのか。
- (事務局) 回収協力店は 37 店舗ある。小型家電リサイクル法に則って長野市も試行しており、当初は、回収した小型家電を有償で売却できるという制度内容だったが、金属の市況が悪化しており、現在は逆に処理費を支払わないとリサイクルできないという現状になっている。
- (委員) 長野市としては、今後普及させていくのか、それとも取り止めにするのか。
- (事務局) 回収拠点多いと市民の利便性は上がるが、収集コストがかかってしまう。サンデーリサイクルや清掃センターでのピックアップ回収は、追加のコストがあまりかからないが、協力店での回収についてはどのようにしていくか大きな課題であり、実施状況を踏まえ検討していく。
- (委員) 自動車のように、メーカーが販売するときに処理コストを価格に転嫁することはできないのか。
- (事務局) 全国の自治体が国に要望しているが、国は消費拡大を推進しており、値段を上げることに否定的な考え方もあるため難しい。
- (委員) 清掃センター等の施設見学について、平成 28 年度は重点項目にされていないが、実際に現場を見て初めて分かることも多いと思う。児童から高齢者まで、施設見学をしてもらおうと良い。
- (事務局) 市内全ての小学 4 年生が施設見学の対象となっている。また、みどりの見学やながの環境フェアでの見学等も周知を図っているが、少子化の影響もあり、参加人数は減ってきている。なお、もう少し先になるが、長野広域連合の新焼却施設ができると大きな関心に繋がるため、既存の資源化施設等も含めて、啓発活動の充実を図りたい。
- (委員) フードバンクに関して、社会福祉協議会でも貧困家庭の対策を行っているが、それらとの連携は取っているのか。
- (事務局) 福祉との連携は大事であり、現在も社会福祉協議会に関わっていただいている。
- (委員) 利用者の手続きが煩雑にならないような方法で、連携を取ってほしい。
- (委員) 長野市は、リユース食器の利用実績が少ない。経費が比較的多くかかることがリユース食器導入のネックになっている。使い捨て容器ではなくリユース食器を使えばごみ減量に繋がるため、リユース食器導入に対する助成を要望する。
- (委員) リユース食器については、まだまだPR不足で、全体に浸透していない面がある。
- (副会長) 買い手がリサイクルやリユースのコストを負担するという意識が普及していけば、もっと導入が広がると思われる。
- (委員) 市主催のイベントはながの環境フェア以外にも数多く行われているため、市全体的にイベントごみの減量に努めてほしい。また、市主催の会議に関しても、ごみ減量の観点から、ペットボトルや紙コップを使わずに、当審議会のように湯のみ茶碗

で出すべきである。

(事務局) 簡単にできることとそうでないことがあるが、具体的な成果が上がるような形にしていく必要があるため、実現可能かどうかも踏まえて検討していきたい。

(委員) 「おもちゃの病院」というところでは、定年退職したエンジニアの方が壊れたおもちゃをその場で直してくれる。子どもたちにとっても、直してまた使えるということがわかると、ものを大事にする感覚が養われていくと思う。

(事務局) 信州環境フェアでは、おもちゃの病院も行われていた。リフレッシュプラザの機能を活用するなどして、そういったこともできるか検討していきたい。

(副会長) 自分でものを作ったり直すことは楽しみに繋がる。教育を通じてそういう感覚が養われていくと良い。

(委員) ゴミ通信は、啓発資料としてとても参考になるため、年1回ではなく、発行回数を増やしてほしい。全戸配布が難しければ、回覧してほしい。

(事務局) 地区の負担軽減の観点から、回覧物の精査が求められているため、回覧は難しい。

7 その他

○本日の議事録は、事務局でまとめたものをお送りし、承認後に公開したい。簡単な日時や概要等をまとめた簡易的な開催結果と本日の資料は、別途ホームページで公開させていただく。

(事務局)

8 閉会

(11時55分閉会)